

りんご病（伝染性紅斑）

ほっぺが「りんご」みたいに赤くなる病気、正式名称は「伝染性紅斑」。この病気、4~5年に1度の大きな流行があります、ちょっとだけご説明。

りんご病はヒトパルボウイルス B19 が原因となる感染症です。病原性は弱く、感染しても症状が出るのは 5 人に 1 人くらいです。感染経路は咳やくしゃみからうつる飛沫感染と、机などについたウイルスに触れて感染する接触感染があります。

感染後 7~10 日で微熱、鼻汁といった感冒症状が出現します。感冒症状は 2~3 日で終息し、その 7~10 日後に両頬部が赤くなり（紅斑）いわゆる「りんご病」の症状となります。紅斑は腕や足にも出現し軽度の痒みを伴うこともあります。同時期に関節痛を訴えることもあります。通常この時期に発熱は認めません。紅斑は 2~3 日で中央から退色し、1 週間程度で消失します。

特別な治療はありません。紅斑出現時痒みがあれば、かゆみ止めの内服、関節痛があれば鎮痛剤といった対症療法となります。

人にうつすのは病初期の感冒症状出現時です。紅斑が出て「りんご病」の診断がつく頃は、熱もなければ人にうつすこともありません。登園登校は OK です。また、一度なると免疫が出来ますのでもう罹らなくなります。

りんご病、軽い風邪ですが妊婦さんが罹ると胎児に影響することがありますので要注意です。

まとめます。りんご病、①軽い風邪です、②紅斑出現時、感染力は無くなっているの登園登校は OK、③二度は罹りません、④妊婦さんは要注意。

ワクチンはありません、予防はうがい、手洗いのみです、感染予防に努めましょう。